

い な 話



たのです。

その頃、言われていたことが、専門誌の衰退、雑誌の盛隆でした。「雑誌、世界」「朝日ジャーナル」が部数を減らし、週刊雑誌が伸びつつあった頃です。つまり、一般にインテリ系の固い雑誌より、娯楽の色合いの強い誌面が好まれるようになっていったのです。

それから、数十年、当コラムに連載を始めた平成三年は、既に、ネット社会は到来していました。娯楽系雑誌も部数を減らしていた時代でもありました。

そんな中、徳島エコノミージャーナルとの出会いがありました。インテリ系の硬派雑誌という印象がありました。出版不況は続いておりました。何とはなく、今の状況は予想出来ていたのかも知れません。

悔いは残っております。もう少し、良い文章を入稿出来なかったのか？個人的にも販売促進は出来なかったのか？・・・等々です。

新しい時代

悔やんでも仕方ありません。長年変えていなかった、コラム欄の写真も終に変えることとなりました。再出発です。

旧のプロフィール写真は、私の個人フェイスブックに移転させています。再会を希望される方はお立ち寄って下さい。

WEB刊雑誌の販売促進策は？列挙すれば

* ホームページの見直し

* SNSの活用

* ちらし（やや疑問）

* プレスリリース

などが考えられます。少々、遅きに帰するかもしれませんが、精進してみたいと思っております。

「文藝春秋」一二月号

私の母校、阿南工業高専が掲載されました。

『地方企業を支える高専の底力』最先端の技術と人材を供給する。知られざる拠点』と題した伊田欣司氏によるルポルタージュで

す。

高等専門学校の現状、地域の企業や産業との関わり等について「地方創生と人材育成」の観点から取材を受けた内容です。

海外で高い評価を受ける高専制度の特徴や技術拠点としての役割について、また本校をはじめ高専生の東大院生にも負けない研究力や、高専と企業との連携、本校OBの高専生活の想い出などが掲載されています。卒業以来、四〇年が過ぎましたが、現在の私の行動の原点となった学校です。是非、目を通して下さい。

地方創生エネルギーミックス

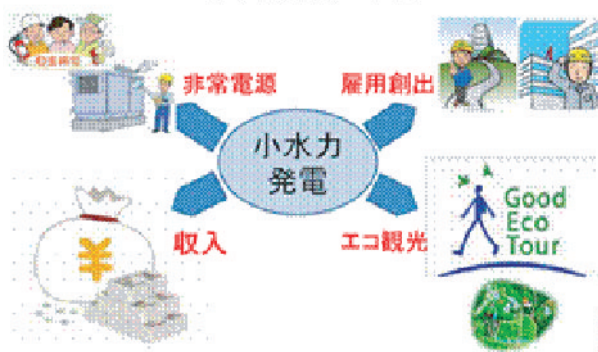
今回、参画している出版企画です。「エネルギーミックス」とは、経産省が二〇一七年の電源構成の目標として打ち出している政策用語で、具体的には「太陽光発電」や「風力発電」を強化すること、ビジネスの開発に持ち込もうという企画です。私が担当するのは「高専発、地域から

世界を目指す小水力発電」という章立てです。まさに文芸春秋のルポルタージュと重なっているのです。

小水力発電のこと

小水力発電のイメージ図と特徴をまとめると次図のようになります。事業は、人によって進みます。登場人物は阿南高専

小水力発電イメージ図



小水力発電の特徴

特長

- ・昼夜、天候に関係なく、年間を通じて安定した発電が可能
- ・出力変動が少なく、系統連系、電力品質への影響が小
- ・設備利用率50～90%と高く、太陽光発電の5～8倍を発電
- ・経済性が高い * 地点毎に異なる
- ・未開発包蔵水力は300万kW
- * 1,000kW以下で全国小水力利用推進協議会試算
- ・設置面積が小さい(太陽光と比較して)

課題

- ・法的手続きが煩雑で、面倒
- 河川法は大規模水力と類似の手続きが要求される
- 太陽光や風力に比べ、法的規制や多くの申請が必要
- ・水利権の認可が必要
- ・設置場所の条件(落差と流量)で機器の内容が異なる

の特任教授、鶴羽氏、宇野氏。鶴羽氏が代表を務める(株)バンブーケミカル研究所、加えて、徳島でのコネクターループ企業である喜多機械産業(株)となります。

このチームによるフィリピンミンドロ島の事業は楽しくも興味深くもあります。この書籍は数ヶ月後、刊行されます。是非、購入・購読をお願いします。